

学校番号				
3	7	0	0	7

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 3 月 6 日

札幌市立

西野中 学校

1 今年度の重点目標

- | | | |
|---------------|---------------|--------------|
| 1 高い知性と学ぶ力の充実 | 2 豊かな心情の育成 | 3 健やかな体の育成 |
| 4 特別支援教育の充実 | 5 小中一貫した教育の推進 | 6 信頼される学校の創造 |

2 本年度の経営方針

- | |
|---|
| 1 一人一人の生徒をかけがえない命を持つ人間として大切にされた教育活動の推進。 |
| 2 教職員相互の信頼関係に基づいた協働体制を基盤とした学校運営 |
| 3 学校間、保護者、地域、関係機関との連携による学校教育の充実 |

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
調和のとれた豊かな心・健やかな体	「学ぶ力」育成プログラムの実施	「『学ぶ力』育成プログラム」に基づいた特効性の高い取り組み	A	学校評価アンケートでは生徒では95.4%、保護者では75.6%が肯定的回答をしている。今年度から、生徒向けは「私は学習課題を自分事ととらえ、主体的に授業に参加している」、保護者向けは「お子さんは主体的に学習に取り組んでいる」と設問の文言を改めたため、保護者回答は肯定的意見が低くなったと思われる。生徒の肯定的回答率の高さはTや合理的配慮などの充実、協働的な学び、個別最適化な学びを実行できる取り組みを行っている成果であると思われる。引き続き「分かる」「できる」「楽しい」が実感できる授業づくりに向け、研修を推進する必要がある。	A	A
	いじめの防止	「西野中いい日」の取り組みを中心とした「いじめ」未然防止の徹底	A	昨年度に引き続き、西野中「いい日」の取組を通して、「いじめ」の未然防止、早期発見を図った。また教育相談も随時実施し、いじめにつながらないような対策も行っている。本年度も生徒、保護者とも肯定的回答は90%を超えており、次年度も全校態勢でいじめの防止に努めていきたい。	A	A
	「健やかな体」育成プログラムの実施	「健やかな体」育成プログラムに基づいた実効性の高い取り組み	A	保健体育科の授業の工夫、養護教諭による指導などで生徒自身が自分の健康について意識する場面を設定したり、部活動を効率的に行うことにより生徒からも保護者からも肯定的回答が95%以上得られている。来年度も「保健たより」「給食たより」などを通して、「健やかな体」づくりの充実を図る。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・温かさがあり楽しく通える学校である。 ・小学校との連携をとり、特に体力面で目標を共有し、改善に取り組んでいけるとよい。 ・子どもたちの体力向上のため、小学校と連携しながら取り組んでいけるとよい。 ・「わかる」「できる」「たのしい」授業が今後もより発展してほしいし、小中が連携して取り組めると尚よい。 ・標準服の着用を徹底してほしい。 				
札幌らしい特色ある学校教育の推進	学びの基盤となる【読書】	生徒の「知的好奇心」の向上と自ら学び続ける心を培う「読書」活動の推進	A	図書館司書により各学級に読書本を設置したり、図書だよりによって新刊の紹介をすることで本への関心が高まり、利用者数も更に増えてきている。来年度からも読書の習慣付けを継続していきたい。	A	A
子どもの発達への支援	不登校支援	不登校の未然防止とともに、個々の生徒事情を踏まえたきめ細やかな指導の充実	A	生徒用学校評価アンケートで“先生方は悩みや問題に親身に対応している”という問いに9割が肯定的回答を示している。また、保護者からも9割以上が教職員は親身に対応しているという肯定的回答を得た。しかし不登校生徒、不登校傾向の生徒がいなければならぬ。今後とも、教育相談の時間を確保し、日常的な学校生活での声掛けや教育相談の時間の確保など相談の受け皿を広げていく。また、学びの支援委員会、ケース会議を中心に、担任・学年・スクールカウンセラー・相談支援パートナーとの連携を密にし、個に応じた適切な対応を、これまでと同様に推進していく。	A	A
信頼される学校の創造	教員の資質・能力の向上	小学校の学びの連携性を意識した指導計画や指導方法の充実	A	今年度は春の札幌研を中心に小中交流を行うことができた。来年度は本校が授業を行い交流する予定であり、小中一貫担当教諭の下、小中連携を密にし交流を行ってほしい。	A	A
教科等の枠組を越えた教育	進路探究学習（キャリア教育）	将来の生き方について考えるキャリア教育の推進	A	進路探究学習を通じて自分の将来に対する見直しをもつことができた。生徒の学校評価アンケートも肯定的回答は9割を超えている。コロナ禍以降、職業体験を行っていないが、講演会などにより現場で働く方の声を聞く機会を設けている。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・進路を決めていく過程が、将来的な目標と現地の認識、子ども一人一人に対応したものになっていけるよう、小学校でも目的意識をもちながら行っていきたい。 ・子どもたちが自分の今とこれらを見つめながら進路を選択することができるように、「小中一貫した教育」の充実に向けて取り組んでいけるとよいと思う。 				
学校独自に設定する分野	個に応じた指導（T T、少人数、学びのサポート、教育相談等）の充実		A	各学年の複数教科でT Tを計画通り行うことができた。学びのサポートも、概ね計画通りに活用することができた。教育相談は時数を確保して実施することができている。次年度は更に学年の実感や個に応じた指導体制を強化していく。	A	A
	個別の支援計画、指導計画に基づいた組織的できめ細かな生徒支援		A	校内学びの支援委員会を中心に、ケース会議・支援シートによる該当生徒の情報共有や支援内容の協議を充実させた。学びの支援シートや情報共有ファイル（の中フアイト）が更に充実したものとなり、職員による情報交流が容易となっている。教師による学校評価アンケートでは10割の肯定的回答を得ている。次年度からも引き続き生徒へのきめ細やかな支援につなげていく。	A	A
	教職員の心身の健康に配慮した働きやすい職場環境の確立		A	「働き方改革」の観点から、勤務時間の適正管理や職員室内の良好な雰囲気醸成を図った。しかし業務量及び内容、分担等において見直しを図らなければならない課題も多々ある。充実した教育活動を行うためにも、教職員の心身の健康維持は不可欠である。早急に対策を考えていく必要がある。	A	A
	I C T活用の促進など、学校施設設備の効果的な活用を図るための環境整備		A	小学校での指導もあり、生徒自身がクロームブックを使いこなすことができているという意識が高くなっている。また、授業内でも効果的に活用している場面が増え、行事などや学習テーマについてクロームブックでまとめて発表するなど積極的に進んでいる。次年度も効果的な活用法を更に進めていきたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・全般的に右肩上がりに評価が良くなっている項目が多くてよい。 ・部活動の取組によって、とても充実した中学校生活が送れることに感謝しているとの意見が多数ある。 				